

違い認め合う大切さ訴え

物語創作、手作り冊子に

佐野高付属中の荒川さん

【小山】「自分と他人の違いを認め合うことの大切さを物語を通して伝えたい」と、佐野高付属中3年荒川芽萌里さん(14)と横倉新田さんは、自作の物語の執筆にいらしている。これまでに2話を書き上げて手作りの冊子にまとめ、母留美さん(41)が代表を務める市民サークルのイベントで販売。読者からは好意的な感想が寄せられている。(江連旭)

いじめ防止の啓発にも



ピコランの物語を書いている荒川さん

物語は、生まれつき光る

力が弱いホタル「ピコラン」が主人公。ホタルの小学校に入学した後、光が弱いため周囲から笑われるにされ傷ついたピコランが、父やクラスメイトとのやりとりを通じて「他人の良い部分を見つける大切さ」に気付いていく。

小学2年生のころ、授業で物語を作ったことを機に書く楽しさに目覚めた。1話目を書き上げたのは「みんなながってみんないい」の一節が有名な金子みすゞの「わたしと小鳥と鈴と」に感銘を受けた6年生のころ。中学進学後に書き始めた2話は今年1月末に完成した。

留美さんの勧めで物語をA5判の冊子にまとめ、ママ友サークル「桜小町MAO(マオ)」が定期的に開く通学グッズの販売会などで並べている。手に取った

読者からは「感動した。10代前半の子が書いたとはびっくり」「手もとに置いて読み返したい」などと手紙やメールで次々に感想が寄せられているという。現在3話を執筆中だ。荒川さんは「人との違いがいじめの対象になってほしくない。人の良い点を見つ

るのが大切だと伝えていきたい」と力を込めた。問い合わせなどは留美さん(rumi.arakawa17@gmail.com)へ。

2021. 4. 13 下野